

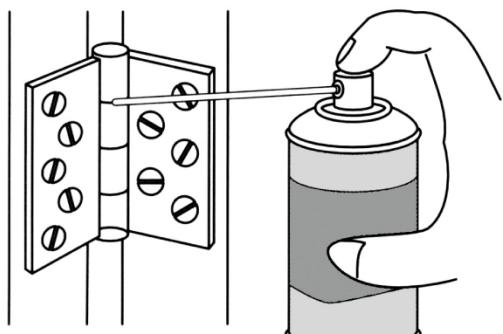
室内編

内部建具

室内ドア

お手入れ方法

- 木製のドアは、布でカラ拭きしてください。
- カラ拭きだけでは落ちない、手垢汚れなどは、住まい用洗剤を薄めたものを含ませて、拭くようにしましょう。
- ドアノブ・レバーハンドルなどは、手垢などで汚れやすいので、固く絞った雑巾で、こまめにお手入れしましょう。
- また、ツヤを出したいときは、金属用ワックスで磨くと、効果的です。
- 開閉時にキシリ音がしたり、開閉がスムーズにいかなくなったりするのは、蝶番の油が切れています。ミシン油やシリコン系スプレーなどを、差してください。
- また、蝶番の取り付けネジが緩んでいるときは、締め付けてください。

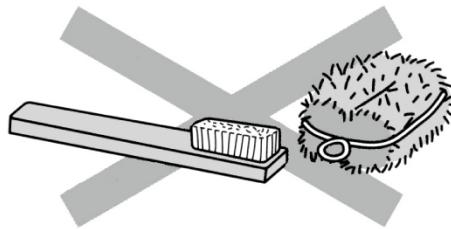


注意

- 化学雑巾や水が垂れる雑巾は、表面剤が剥がれたり、変色したりする原因になりますので、使わないでください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤は、表面の変色や変質の原因になりますので、絶対に使わないでください。



- ブラシやたわしも、キズを付ける原因となりますので、使用しないでください。



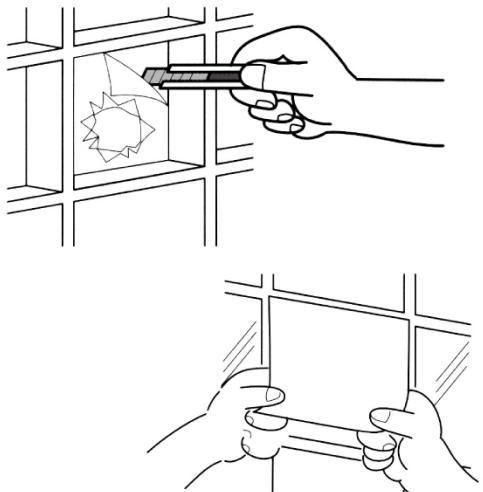
- シールやセロハンテープなどは、剥がすとき、表面の仕上げが剥がれてしまう恐れがありますので、貼らないでください。



障子

お手入れ方法

- 桟や引き手まわりの、手垢などの汚れは、住まい用洗剤を薄めて拭いてください。
- 障子に穴が開いた場合は、カッターで桟に沿って紙を切り取った後、桟にノリを塗り、新しい紙を貼りましょう。



注意

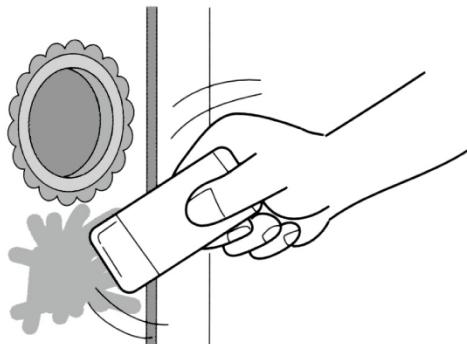
- 障子の桟をお手入れするとき、障子紙を濡らすと、剥がれや破れの原因になります。充分注意してください。

襖

お手入れ方法

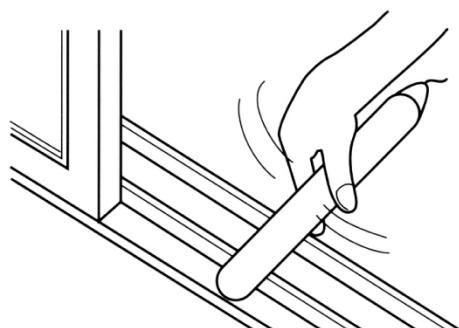
- 襖紙や枠のホコリは、ハタキやカラ拭きで取ります。
- 引き手は、カラ拭きか固く絞った雑巾で、水拭きします。
- 引き手まわりの襖紙は、最も汚れやすいところです。この汚れは、きれいな消しゴムでこする

と、目立たなくなります。このとき、汚れた消しゴムは、かえって襖紙に汚れを付けてしまいますので、使わないようにしましょう。



注意

- 襖は、外側と内側の温度や湿度の違いにより、反りが生じことがあります。
- この場合の対策として、襖を裏返しにしてはめておくと、元に戻りやすくなります。そのままにしておくと、襖本体にクセがついて、戻りにくくなりますので、注意が必要です。
- 天袋が重くなると、鴨居が下がり、襖の開閉がしにくくなることがあります。その場合、天袋の中を軽くして、敷居や鴨居の溝に、ロウを塗るとよいでしょう。



造作材

洋室

お手入れ方法

■特殊樹脂シート仕様の場合

- 柔らかい布で、カラ拭きしてください。
- ひどい汚れは、住まい用洗剤を薄めたものを含ませたもので、拭くようにしましょう。
- ワックスを使うと、ムラ模様やシミなどの原因となるので、使わないでください。

和室

お手入れ方法

■檜や杉仕様の場合

- 特殊樹脂シートと同様、柔らかい布でカラ拭きしてください。
- ワックスは、白木部分は白木専用ワックス、床板は床板用ワックスと、それぞれにあったワックスで磨いてください。

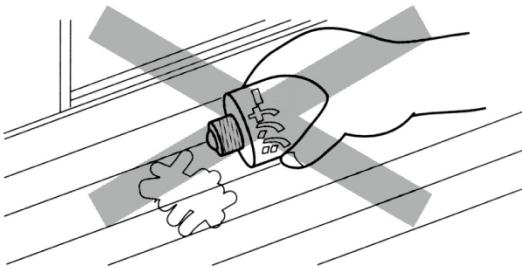


注意

- 水拭きは、表面の保護塗装が剥げて、ツヤがなくなりますので、避けてください。
- また、花瓶などを置くときは、下に敷物をおいてください。水がつくとシミや傷みの原因になります。



- 変色や傷みの原因になる、シンナーやベンジンは、汚れ落としに使わないでください。



- 絞り丸太の床柱は、表面に多少ヒビ割れが生じることがありますが、これは自然木の特徴です。

壁・天井

壁

お手入れ方法

■クロス貼りの場合

- ホコリは、電気掃除機やハタキなどで取ります。



- 汚れがひどい場合は、雑巾に住まい用洗剤を薄めたものを含ませ、拭くようにしましょう。
- もし、カビが発生した場合は、カビ取り剤を利 用しましょう。

注意

- 壁を掃除するときは、つなぎ目に水が入らないよう、充分注意してください。クロスが剥がれる恐れがあります。
- カビの発生する原因是、湿気や結露です。湿気や結露がたまらないよう、充分換気をしてください。
- 手垢などで汚れた場合は、きれいな消しゴムでこすっても、汚れが取れます。
- 変色を防ぐために、シンナーやベンジンは使用しないでください。
- 洗剤を使用する場合は、原液では使用しないでください。

天井

お手入れ方法

- ホコリ・スス・クモの巣などは、ブラシやハタキで払い落とします。
- ほうきなどに布を巻き、ストッキングを被せたものを利用すると、静電気の化学作用でホコリが取れます。

注意

- 天井材は、耐水性に弱いので、水拭きはしないでください。
- 天井をお手入れするときは、室内にあるものにホコリなどが被らないよう、カバーをするとよいでしょう。
- 新しい照明器具などを取り付ける場合は、落下事故などを防ぐためにも、自分ではせずに、電気店などの専門業者に、依頼してください。



床

畳

お手入れ方法

- 掃除機やほうきを使うときは、畳を傷めないように、目に沿って、ゴミやホコリを取り除きましょう。
- カラ拭きは、週に1度くらいが理想的です。
- 汚れが落ちにくい場合は、住まい用洗剤を溶かしたものに浸した雑巾を、固く絞って畳の目に沿って拭きます。その後、よく乾燥するように、カラ拭きしてください。
- 縁の汚れが気になる場合は、消しゴムでこすったり、住まい用洗剤をブラシに付けて、軽くこすって落とします。
- 年に1度は畳干しをし、叩いてホコリを出したり、防虫剤を散布しましょう。
- 畳を干すときは、どの場所にあったか分かるよう、何か印を付け、元の場所に戻します。
- 畳はとてもデリケートです。1枚1枚微妙に違っていますので、位置が変わると、すき間ができることがあります。

● 畳を取り替える場合は、2~3年を裏返しの目安とし、その後、2~3年で新しいものにします。

注意

- 畳の水拭きは、変色を速めたり、寿命を縮める原因となるので、禁物です。
- 畳は直射日光に当たると、変色の原因となりますので、なるべく避けましょう。
- 畳の上にカーペットなどを敷くと、ダニやカビが発生しやすくなり、不衛生になりますので、止めましょう。
- 畳を干す場合は、表面だけでなく、裏面も日光に当てましょう。
- 煙草の火などで、畳を焦がして穴を開けないうよう、気を付けましょう。もし、穴が開いてしまった場合は、千枚通しなどの鋭利なもので、イグサを2~3本抜き取ります。その後、両方のイグサを1本ずつ寄せ、すき間を埋めるように詰めると、目立たなくなります。



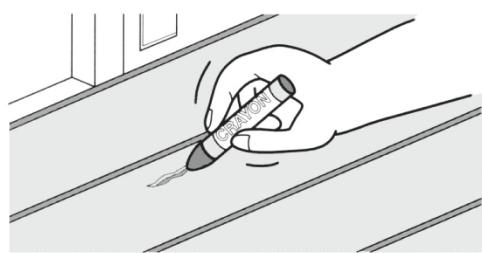
フローリング

お手入れ方法

- ゴミやホコリを取り除き、カラ拭きをします。
- 1~2ヶ月に1度くらいは、固く絞った雑巾で拭き、床用ワックスをかけましょう。ワックスは傷をつけにくくし、表面を保護する働きがあります。
- 汚れがひどいときは、住まい用洗剤などを、利用するとよいでしょう。

注意

- 水拭きは、表面の保護膜を剥がし、光沢をなくすので、止めましょう。
- ワックスをかけるときは、塗りすぎに注意しましょう。黒ずみなどの原因になったり、滑りやすくなつて危険です。
- 住まい用洗剤を使った場合は、カラ拭きしてください。
- シンナー・徐光液・塩素系洗剤・酸素系洗剤は、色落ちの原因となるので、使用しないでください。
- フローリングに傷が付いたときは、専用の傷補修剤か、同じ色のクレヨンを塗り込みます。



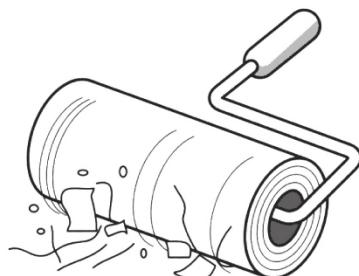
- 小さい傷であれば、ローソクでも目立たなくなります。

カーペット

カーペットは、ホコリやダニ、また害虫などが、最も付きやすい場所です。こまめなお手入れを心がけましょう。

お手入れ方法

- ゴミやホコリは、掃除機で吸い取ります。このとき、毛並みに沿つて掃除機をかけると、毛足が傷みません。
- 掃除機で取りきれない、髪の毛やホコリは、粘着ローラーなどを使ってください。



- 汚れを落とすときは、住まい用洗剤を薄めた液に浸した雑巾で、拭いてください。汚れを取つた後に水拭きをし、乾いた布で水気を取り、よく乾燥させてください。
- 清潔に長く使うために、月に1度ぐらいは市販のカーペット用洗剤で、クリーニングすることをおすすめします。
- カーペットは、ときどき日光に当てたり、専門のクリーニングに出しましょう。

注意

- カーペットのお手入れは、乾燥が早くなるよう、天気のよい日を選びましょう。
- 家具などでできたへこみは、10cmぐらい上からアイロンで蒸気を当て、歯ブラシなどで整えるとよいでしょう。

収納関係

玄関収納

玄関収納は、スペースが狭い中に、靴や傘などがあるため、湿気が溜まりやすい場所です。カビの発生を防ぐためにも、風通しに気を配りましょう。

お手入れ方法

- 靴は陰干しなどして、湿気を取ってから、しまってください。
- ときどき、靴を出して内部を掃除しましょう。
- 普段から、扉を少し開けておくなどして、風通しに心がけるとよいでしょう。



注意

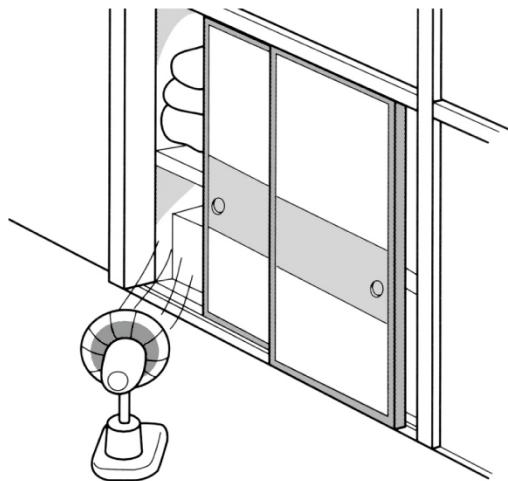
- 濡れた靴や傘は、カビ発生や傷みの原因になりますので、そのまましまわず、必ず乾かしてからしまってください。
- 靴の臭いは取れにくいものです。脱臭剤などを入れておくと、効果的でしょう。
- 玄関収納の上には、あまり重いものを載せないよう、注意してください。重さのため、扉の開閉がうまくできなくなることがあります。

押入

押入も普段は締め切っているため、湿気が溜まりやすい場所です。こまめに風を通すことを、心がけましょう。

お手入れ方法

- 天気のよい日には、襖を開け、風を通してください。この時、天袋も忘れず、開けましょう。
- 布団などを収納する際は、下にすのこを敷くなどする、工夫を心がけましょう。
- 梅雨時など、特に湿気が溜まりやすい季節は、扇風機などを使って、風を送り込んでください。



注意

- 布団は、思った以上の湿気を含んでいますので、こまめに干してください。
- 市販の除湿剤を入れておくのも、効果的でしょう。

クロゼット

クロゼット内は、服の湿気などから、締切にしておくと、大切な服にカビが生えたりすることがあります。湿気がこもらないよう、注意しましょう。

お手入れ方法

- 脱いだ服はその日にしまわず、1日おいて、汗や湿気が取れてから、しまうよう心がけてください。
- 時々は、扉を開けて風を通し、湿気を取り除くことを心がけましょう。



床下収納庫

床下収納庫は床の下にあるため、つい忘れてしまいがちですが、食料品や調味料などを入れておく場所ですので、こまめなお手入れを心がけましょう。

お手入れ方法

- 月に1~2度ぐらい、入っているもの出し、中を拭いてください。
- 収納庫の本体は、取り外して、水洗いすることができます。
- 汚れがひどい場合は、住まい用洗剤を使い、洗剤が残らないよう、よく拭いてください。
- その後、よく乾燥するよう、充分日に当ててください。



注意

- クロゼット内にある棚の、使い方を間違えないでください。本棚代わりに使用したり、極端に重いものを載せるのは、避けてください。
- クロゼット内で、お子様が遊んだりすると、思わぬことが起こる場合も考えられます。危険を避けるためにも、お子様が遊ばないよう、ご注意ください。

注意

- カビを防ぐためにも、除湿剤を入れておくと効果的でしょう。
- 床下収納庫には、野菜類など、腐りやすいものは入れないでください。
- ふたが変形することがありますので、上ぶたの上には、重いものを載せないよう、注意してください。